



FC岐阜

株式会社岐阜フットボールクラブ

代表取締役社長 宮田博之

連載Vol.

65

レウ選手・桐畑和繁選手・松本歩夢選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC Gifu

背番号
11 MF 28歳

ブラジル、リオデジャネイロから来日して湘南ベルマーレ、水戸ホーリーホックで約6カ月ずつプレーした後、昨シーズン秋からFC岐阜にミッドフィルダーとして加入した。

世界中がコロナ禍の中で、奥さんと2歳の男の子はまだビザが下りないので来日出来ず、単身生活中有る。淋しいが、今はオンラインでいつでもどこからでも、相互に映像を見ながら長時間でも話せるし、休みの日には、ブラジル食材を買い込んで、自分でブラジル料理を作って楽しんでいるので、頑張っている。

昨年11月のリーグ戦と今年の天皇杯岐阜県代表決定戦決勝でそれぞれ1得点したが、派手なパフォーマンスもなく仲間の祝福を地味に受けていたのを思い出して、特別なパフォーマンスは何もしないのかと質問すると「得点だけが仕事じゃないから恥ずかしくて僕には出来ないよ。ただ、今後もっと得点するから考えておくよ」との答えが返ってきた。音楽が流れば踊りだす陽気なブラジル人が私のイメージだったが、彼はわたしの思い込みを払拭させた。

選手が若手、中堅、ベテランと揃い、サッカーのみならず、それぞれの言動、行動が自分を磨く参考にしていると言う真面目な選手で、好きな言葉は『誠実』というのがすべてを物語っている。今後の活躍がますます楽しみな愛称『レレ』である。



写真：©Kaz Photography/FC Gifu

背番号
20 GK 33歳

柏レイソルU-18に加入後、柏レイソル一筋で15年間プレーした選手である。

他のチームからの引き合いがあったなか、J3優勝を目指すので力になって欲しいとのFC岐阜からのオファーが嬉しく、「よーっし、力になって優勝するぞ」と気合を入れて来ましたと話す彼は存在感のある明るく屈託のない選手である。

GKとしていつも後ろから状況に応じて大声で褒めたり、激励したり、怒ったりして、気持ちはいつもキャプテンのつもりで一試合一試合、緊張感を持ってプレーしている。

好きな言葉は『take it easy (緊張しないでリラックスして行こうぜ)』であり、思ったことを瞬間的に大きな声で素晴らしい表現力と言えるのは、GKに相応しい才能である。

FC岐阜はミーティングを通して各自が自分の技術的課題や戦略課題をしっかりと認識してレベルアップを図っているの、これから首位になり、首位をキープできるチームになると確信している。

奥さんと1歳の女の子をおいて単身赴任中の彼の癒しは、オンラインでの毎日の家族との会話はもちろんであるが、『ネイチャーアクアリウム』を自宅で楽しんでいる。熱帯魚を水槽で飼うだけでなく、光と二酸化炭素を水槽に送り光合成によって、自然界以上に美しい緑の世界で、魚たちを自由に育ててオフタイムを楽しむGK戦士、愛称『キリ』である。



写真：©Kaz Photography/FC Gifu

背番号
29 MF 23歳

関西大学サッカー部(部員約200名)の中で今シーズンからプロ選手になった3名の内の2名がFC岐阜に加入した。今月紹介する松本君と来月紹介予定の小山君である。

大阪府門真市出身、3人兄弟(姉、兄がいる)の末っ子でプロ選手として一族の期待の星。既にFC岐阜での初出場を果たし、次の番番に向けて、日々充実した練習やトレーニングに励む毎日である。川西選手などの先輩選手からも様々な指導をもらって着実に伸びている実感があり、ありがたく感謝している。

言葉が直接的にぐざりと来る大阪と違って、岐阜は言葉遣いも人も優しく、街の様子も気に入っている。その中でも、何でも売っているドラッグストアが街中であって便利で重宝している。

初めての自炊生活にチャレンジの毎日であり、相当に悪戦苦闘のようであるが、これも成長の糧となるに違いないと感じた。好きな言葉は『継続は力なり』で、夢は大きく日本代表選手。FC岐阜と共に羽ばたけ『あゆ』!、その日を目指して日々研鑽中で、まずはベンチ入りを楽しみだ。